



サロンあべの

サロン・にしよど

「出会いの輪、笑いの和、
そしてもう一つの「わ」を求めて」

〈サロン・あべの〉6月の出会い

平成17年6月18日(土)午後1

時〜4時、〈サロン・あべの〉6

月の出会いは「サロン・にしよ

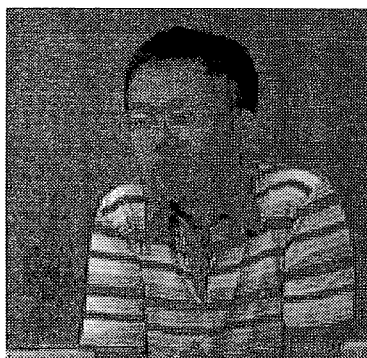
ど」代表の中本勝也さん(写真

をお迎えして、「出会いの輪、笑

いの和、そしてもう一つの「わ」
を求めて」と題してお話を伺
いました。

・自己紹介

今年の4月から特別養護老人
福祉施設で生活相談員として勤
務している。高校3年生の時、介
護に関心を持った。それは、家族
に介護を必要とする高齢者がい
たからで、施設ボランティア活
動に参加したりしていたが、自
分が考えていた介護とは違うよ
うに思った。その頃、英語にも興
味があったので関西外国語大学に
進んだが、なじめず関西福祉大
学に転入した。その後、神戸大学
院生になり「ホームレスといわ
れる人たち」の生活調査や支援



を行う。その間にもいろいろな
ボランティア活動に参加してお
り、さまざまな出会いと体験を
する中で、単に知らないだけで
文化や習慣の違いから偏見を
持っていたことに気付く。お互
いの違いを知ることから、いろ
んな人に対する理解も深められ
ることを学ぶ。

・サロンとの出会い

サロン よいところ、 こんなところ

ボランティア活動に参加している時、大阪市ボランティア情報センターの脇坂さんにサロン活動の話聞いた。「サロン淀川」や「サロン・あべの」の集まりに参加して、自分もやってみようと思った。2001年9月から準備して、2002年5月に「サロン・にしよど」がスタートした。活動は身近な人が誰でも参加して支えあい、交流できるものにしたと考えた。サロンのスタッフは、西淀川区のボランティア講座に参加していた2名と、点訳をしている人2名、その他の2名を含めた合計6名で始めた。

毎月のサロン開催は苦労の連続であるが、参加者に楽しんでもらおうと「たこ焼きパーティー」や「クリスマス会」、クワリネットの「音楽会」、見学会など、さまざまな内容を組み合わせている。地域の子育てサ

クルとの交流もあり、サロン活動としての広がりも生まれてきている。



・サロンを通じての収穫

サロン活動の役割とはどういふものかと考えると難しいが、これまで近所でありながらあまり話をしなかった人と親しくなったり、高齢者が子育てサークルなど年齢差のある人たちとの世代間交流ができるなど、出

会いの中から身近なふれあいが地域に広がっている。

・ちょっとした悩み

「サロン活動には誰でも参加してください」と言いながら、サロンを開催する場所にエレベーターがなかったりして、車いすの参加者には辛い思いをさせたりしている。また、開催内容によって対象者の間口が広くなったり、狭くなったりしてしまう。開催場所の環境作りが整っていないのが悩みどころ。

・今後の展望

くもうひとつの「わ」

サロン活動を通じて、「サロン・にしよど」のテーマを考えてみると、着実に「出会いの輪、笑いの和」は、広がってきていると思う。そして、もう一つの「わ

は、何かと考えた。あえて漢字を探してみたところ、「把」を見つける。この漢字には「たばねる」

という意味がある。サロン活動を通じて今まで出会う機会の少なかった人やサークル、催し物や文化的なものとの出会い。そして、サロンとしてそれを「たばねる」役割も考えて、これからいろいろな「わ」を広げてゆきたい。

中本さんのお話を伺い、若い代表者によるサロン活動は、地域の新しい風となつて多くの出会いを体験されながら、さまざまな「わ」を作り上げて行かれますと実感しました。

また、この日は聴覚障害の方、視覚障害の方、車いす使用の方、そして、健常者の方々など、幅広い出会いの輪が広がった（サロン・あべの）6月の出会いでした。

（見出し：中西利香・筆）

（参加者28名＋盲導犬）

山村貴司

お知らせ

<サロン・あべの>8月の出会い

内 容：バザーの店「さろん亭」を開店
 サロングッズや、タオル、石鹸
 などお買い得の品を山積みにな
 して、みなさまのご来店をお待
 ちしています。

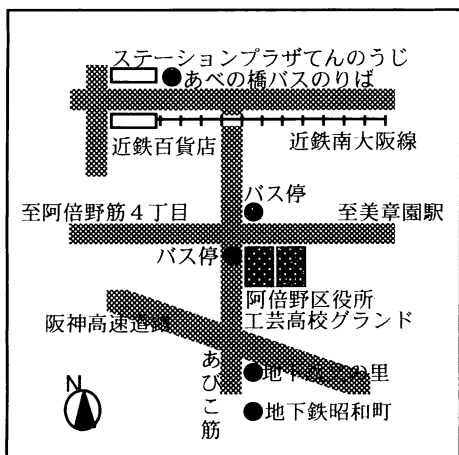
日 時：8月7日(日)午後3時～6時

場 所：あべのカーニバル
 なんでも市会場
 大阪市阿倍野区文の里1-1-40
 阿倍野区役所裏、工芸高校グ
 ランド

交 通：地下鉄御堂筋線
 「昭和町」駅北へ10分
 地下鉄谷町線
 「文の里」駅北へ5分
 市バス・赤バス
 「阿倍野区役所」停留所前

*当日の販売のお手伝いをしてくださる
 方、品物をご提供いただける方、ご連絡
 お願いします。

問合せ先：☎06-6691-1028 (富田慶子)



サロンと私

私がリウマチの再発で痛みと不安で、すつかり落ち込んでいた時、富田さんのお誘いを受け、はじめて「サロン・あべの」に参加しました。障害者も健常者もみな生き生きと積

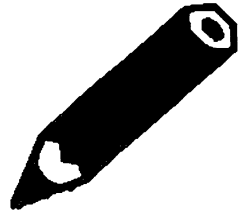
極的に行動しておられる様子を見て驚き、こんなところがあつたのかとすっかり魅せられました。それから毎月の出会いが待たれ、楽しく参加しました。しかし最近では体調が悪く、お送りくださるサロン紙を楽しみにしておりましたが、とうとう生まれ育った大阪を離れ生駒に移り住むことになりました。こちらに來まして、私の体調もやや落ち着き、ここにも障害者デイケア、外出支援、さをり織り指導、カラオケ、絵手紙などと、障害者・健常者・地域の人と誰でも参加出来るNPO「あけび」を知りまして、そのサロンにおしゃべりに行っていきます。つい数日前には、みんな集まつて当市在住障害者ファミリーバ

ンドのコンサートで盛り上げ、「あけび」名物たこ焼きパーティーでにぎやかに発足5周年を祝いました。しかし、こちらに來てからですが、天王寺に出た時、昨年の暮れにサロンでお食事をされた「つくし亭」に自然と足が向いて、ヘルシーなおいしいお料理をいただけてきました。が、皆様とご一緒だったらなあと思ひました。

春は竜田川沿いの桜、夏は花火大会、冬のクリスマス会と手近なところで自然を満喫出來て、毎日私の部屋から眺める生駒の山と対話しながら山の向こうの大阪を偲んでいます。

(杉山蔦枝)

18



邦子、 ..ん歳の手習い。

私の社会人学生生活

私は立命館大学の政策科学研究科を終了し、昨年の4月から同大学の先端総合学術研究科で勉強しています。知り合いからは「いつまで、モラトリアムを続けるつもり？」などと、難しいけれども、真実に近い批判を受けながらも、まだ頑固にも社会人学生で頑張っています。先端総合学術研究科は3年前にできた5年間一貫教育の新しい大学院大学です。研究科は、公共、生命、共生、表象に分かれており、私の所属している公共では、

現在40数名の学生がいて、年齢は若い人から、73歳の方までそれぞれの幅広い関心をもった人達が学んでいます。私は、定年後73歳の方で公共経済学を研究している方のライフワークとしての研究姿勢に刺激を受け、気楽な気持ちで入学しました。入ってみると、研究については自主性が重んじられ、なかなか難しいものがありますが、障害者の自立について自分なりの整理が出来るまで、もうしばらくモラトリアムをつづけようと思っています。

ところで、「サロン・あべの」紙で岸田美

智子さんが詳しく説明してくださっている障害者自立支援法について、私たちの研究科でも、学生の自主的な勉強会を始めています。この法案は障害者だけの問題ではなく、みんなの問題でもあるのではないかとという考えから、多くの人にこの問題を知ってもらいたいという学生の想いから勉強会を始めました。勉強会での私の役割は、障害者当事者の今までの自立への想いを伝える事です。

同級生の小林隼人さんは、弟さんが障害者で作業所に通っているということもあり、障

ありがとう。20年

<サロン・あべの>は20年になります。

害者自立支援法が成立すると、弟さんや家族の生活に影響してくるということを感じました。そして、「障害者自立支援法」についての勉強会から始めて、京都の大学生や障害者当事者が中心となって活動していく「障害者自立支援法反対実行委員会」をつくりました。

彼は、「法案が通過すると普通の生活を送るのに、障害者やその家族だけが過度な負担を強いられ、障害者『自立』が疎外されてしまいます。慈善でもない家族でもない、制度

を通じて権利として保障することを、お互いに認めあっているはずの私たちの普通の生活が、私たち抜きでつくられたルールにより危機にさらされようとしています。これらは、自衛隊のイラク派兵、憲法改悪や教育基本法改悪などの私たちを取り巻く一連の動きと無関係ではないように思えます。これらを解決するためには、できるだけ多くの人がまず知ることからしか始まらないのではないのでしょうか。まず知り、憤りを感じる人達で考え、NO！を言っていきましょう」と訴えています。

この実行委員会を通じて、学生でできることから始めようということで、障害や福祉に関心のある人達のネットワークづくりと京都の大学内や街頭で、ビラ配りなどの情宣活動を行っています。私も勉強会や実行委員会に自分のできる範囲で、時々参加しています。学生は私を除けば、ほとんど若い人たちですが、違和感なく話し合いに参加できています。

また、身体、知的、精神の障害者の人達と楽しくお話できると同時に、それぞれの障害について知る機会になりました。いろいろな人達と知り合えて、私の今までの狭い視野を広げて、生きた勉強をしています。(定藤邦子)

お天気の良い日には、我が家の居間の窓から生駒山が一望できる。その山もいつのまにやら新緑から深緑に変わり、7月とも

なればその彩りは山々が自ら粧う感じがする。

4. 山眠る (冬)

なればすっかり夏の装いである。いずこの山も同じように生駒山も春、夏、秋、冬・・・と、それぞれ違った顔を持っている。

生気を失った冬の山が、ちょうど眠っているように静かに見えるさまをいう。

晴れのち晴れ 82

山

稲垣 恵雄



そういえば俳句の世界では、四季の移り変わりの山々を次のように形容している。

1. 山笑う (春)

春の芽吹きはじめ

た、華やかなありさまをいう。

2. 山滴る (夏)

夏の山は、美しさやみずみずしさが溢れるように映るさまをいう。

3. 山粧う (秋)

秋の山は空気が澄み、もみじの頃とも

「歳時記」より
ところで日本は山国といわれるように山が多く、どこからでも山を眺めることができる。一言で山といっても標高(海拔)も山容の

美しさも異なるが「山ふところに抱かれて」という言葉もあるようにふところの深いのはどの山も同じこと。だから私はいつ山を見ても母のふところと同じように温かく迎え入れてくれるような気がするのである。

夢の不思議



普段は寝不足ぎみなのだが、最近、子どもを寝かしつける夜には午後八時にはふとんに入ってしまうので、そのまま夜明けまで眠ってしまふことも多い。そうになると、九時間ちかくも寝てしまふのである。

そんな長い眠りのあとは、たいてい、夢をはっきりと覚えている。つまり目で見たものだけではなく、身体が浮かび上がったときの内臓の感覚や、誰かの手をにぎったときの冷たい肌の感触が目覚めたあとも身体（からだ）の中に残っているのである。

少し前の夢では、離れた小さなものを指差すだけで、それをポタツと倒す力があることに気がついた。それがあまりにも本当のできごとのようなだったので、私は朝起きてから、こっそりと食卓の上にあるコップを指差してみた。

当たり前のことだが、コップは倒れない。そのとき「倒れるはずがない」という自嘲めいた可笑しさと、「変だな、倒れるはずなのに」という不可解な思いが残った。とすれば、もうその時刻には家族と少しばかり会話をしていたはずなのに、私はきつとまだ半分、夢の中にいたのだろう。

子どものころから、私は夢に興味があつ

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

ほんの少しの
神に近い部分

700円

た。高校生のころ、あまりに素敵な夢をみたので、その続きをみたいばかりに学校を休み、眠り続けたことがある。果たして、夢の続きは見たのかどうかは覚えていない。

数年前、夢をもつとはつきり見る方法があるとテレビ番組で知り、インターネットで外国の本まで取り寄せて読んでみた。それによると、まず夢をすっかり思い出す訓練が必要で、そのためには見た夢の日記を毎日書き続けるのが一番だという。それにしたがって、私は長い間、夢の日記を書いていたように思

暑中お見舞い申し上げます

暑さ厳しい昨今が続いています
が、皆様にはお元気にお過ごし
でしょうか。どうぞ、暑さ疲れが出
ませんように健康に気をつけてく
ださい。このような暑い日が続くと
水辺が恋しくなりますが、カナヅチ
の私には海も川もプールさえ遠い
存在です。しかし、一つだけ水に
近づけるお気に入りの場所があ
ります。ここは、夏だけとは限り
ません。春夏秋冬楽しめます。太
陽がまぶしく輝く青空の下で緑
陰の風に吹かれながらその場所
にいますと、時間の過ぎるのを
忘れてしまいます。そこは大阪
市障害者スポーツセンターやサ
ッカー競技場、植物園、博物館
などがある長居公園の中にある
噴水です。この噴水は水を噴き
上げるだけでなく、踊るのです。
それも高く低く、右に左に自由
自在に動き回ります。それも、
縦列になったり横列になったり
して、その形と共に手拍子を打
つような水音も変化して行きます。
いくつかのパートが組み合わさ
ってさまざまな形を作っていく
のですが、私にはその種類の数
が未だにはっきりしていません。
先日も長居障害者スポーツセン
ターでの催し物に参加すべく出
かけたのですが、まずは噴水を見
なくてとは歩道の照り返しがま
ぶしい中、電動車いすでひた走
りました。私の姿を見た知人は
この暑い時間帯にどこへ行くの
かといぶかしみながら、爽やか
な冷房のあるセンターに入った
と言っていました。その人にも
言ったのですが、皆様にもその
噴水を見て楽しんでいただけれ
ばうれしいです。(け)

……ききみみずきん

う。
夢のなかで自分が夢を見ていると自覚でき
るようになれば、夢はすっかり自分のもの
なるらしい。というのも、夢のなかで自分
が夢を見ていることに気がつけば、夢をは
つきりと記憶できるようになる。そして最
後の段階として、夢のなかで、これは夢
であると知ることができれば、夢の内容を自
分の意のままに変えることができるそう
だ。

このような夢への関心は、現実への関心と

結びついているかぎり健全なものだと思
う。しかし現実とのかかわりがなくて夢
ばかりに耽溺し、眠り続ける人がいると
したら、それこそ危ない。薬物中毒者に
近い状態が、そこにはあるのかもしれない。
夢が危ないと思われたいのは、そこに他
人はいないからだろう。自分ひとりの
完結した世界なのである。そこに出てく
る人々も現実の人ではなく、自分の意識
がつくりだしたイメージにすぎない。
夢の中ではどこまで進

でも、自分の頭の中なのである。
しかし、私たちが周囲の人たちをど
れだけ正確に見ているか、自分のなか
だけのイメージで見えていないかを
点検すれば、意外にも夢と現実には
大きな差がないのかもしれない。
歴史上の宗教家たちが、皆、「目覚
めよ！」と叫び続けたのは、起きて
いながら夢を見ていた。私たちが
への警告なのかもしれないのであ
る。(知)

赤松 昭

「谷間」に こだわり続けて

14

「教育と現場の谷間」

この春から私は学校で福祉教育に携わるようになりました。日々学生に向かい合う中で、改めて現場と教育の谷間、というものを考えさせられています。毎年、多くの新卒者が現場に就職し、学校で習ったことと実際の仕事とのギャップに戸惑う。そして現場の職員は新卒者のあきれた仕事ぶりに「一体で学校では何を教えているんだ」と嘆く。こうした教育と現場の谷間は古くて新しい課題のようです。

振り返ってはるか昔ン十年前、私が受けて

きた福祉教育と言えば・・・、「偉人伝」に彩られた教科書、「昔話」を延々とする老教授、「お見合い」かと思まごうほどの実践とはほど遠い模擬面接。ごく一部とはいえ、こうした講義が、せっかく意気込んで入学してきた学生の向学の芽を摘み取っていました。「自らの寝食も惜しんで、〇〇先生は貧困者の救済にあたられました」って言われたってねえ。「そんなこと言うから、福祉はいつまでも特別な奉仕の世界から抜けだせないんだよ」と私は思っていました(思っていただけで異を唱えることはしませんでした)。このような状況だったので、私が本当に欲しかった情報・アドバイス(セルフヘルプグループに関するもの)は講義では学ぶことができず、人伝いに知り合ったある先生からいただいたものでした。

今はこうした実態も随分変わりました。ただそれでも、学校教育だけで学べることは限られています。1カ月あまりの実習だけでは足りないのです。だから私は福祉教育を受ける者は、学校とは別にフィールドを持つべきだと考えています。障害者であれ、高齢者であれ、そして児童の問題であれ、当事者と正

面きつて向かい合う。現場で渦巻いている問題にじかにぶつかる。もちろん、たじろぐこともあるだろうし、恥をかくこともある。当事者に叱られることだってあるでしょう。しかし、そうした営みを通じて初めて、己が学びの大地に柱が立つのだと思います。ただ、この場合は自分が関わっている世界が全てではないことを十分認識しておく謙虚さを忘れてはいけません。

教員としてはまだ新米の私ですが、これまでの経験を活かして、少しでも現場と教育の谷間を埋めることができる講義を心がけるつもりです。ただ、どれだけ学生がこの私の方針に着いてきてくれるのかは疑問なのです。

ありがとうございます。

カンパ、切手・お茶・パン・お茶菓子・輪ゴム・バザー用品などの寄贈、また、サロングッズのお買い上げ、ありがとうございます。岡賀寿子、加賀谷正、神谷君栄、竹下洋子、竹野良枝、土井俊次、辻本輝子、長井玲子、中本勝也、東百合子、東谷和代、藤井さゆり、松村美鈴、山本鈴子、その他の方々。(敬称略)

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力でくサロン・あべの紙第228号の音訳テープが出来ました。6月26日(日)富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送)の録音テープがあります。

■音訳テープ文庫

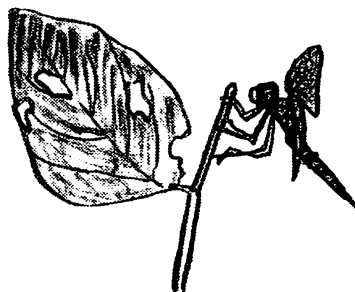
- (a) くサロン・あべの紙は、第1号より第228号までそろっています。
- (b) くサロン・あべの十周年記念誌「はあとが、はろー!」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「くサロン・あべの平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子

著＝糸でんわ音訳)

- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけつと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン!」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。

メールもいいけど、
手紙もネ。



サロンの
一筆箋

1冊100枚綴 ¥150-

美智子のこんな話

岸田美智子

どうなる?! 障害者自立支援法

国会での審議が止まっていた障害者自立支援法ですが、審議が再開され、その動きが激しくなってきました。

一時は、民主党がこの法案に反対決議し、審議には参加しないという立場を打ち出しましたが、それでは多数決によって、すんなり通ってしまう状況が目に見えているということとを、障害者団体が指摘し、民主党に対して審議の場に出るように強く要望したそうです。(6月22日現在)

1割負担についても、いろいろ上限額が変わってきています。グループホームでのホームヘルパー、ガイドヘルパーなどの利用も検討されているようです。そんな中で、大阪市では自立支援法が施行された時に、導入され

る障害者区分判定の
施行事業が始り、「自
立生活センター」ま
いどく」も委託を受け
ました。委託を受けて
から何と1週間で終
わらせ、報告しなけれ

ばならないという状況です。その対象者の1人に私が入っていますので、また、機会があればこの施行事業での問題点などをお知らせできたらいいなと思っています。

現在の日本で障害者問題がいかに軽視されているか、何が問題なのか、国家予算のあり方、そして今、直面している経済復興の問題や高齢化問題などのキーワードとして、障害者問題があるということとをまとめた記事が6月28日付朝日新聞朝刊(次頁)に掲載されました。

○連絡先

自立生活センター・MY・DO(まいど)
〒558-0002

大阪市住吉区长居西1-9-12キミハウス1階

TEL 06-6609-3133

FAX 06-6609-3210

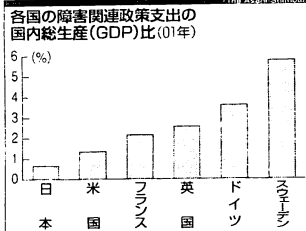
サロンの

絵はがき

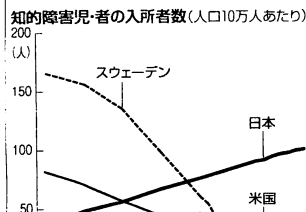
5枚1組 ¥180

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力をお願いします。

審議進む「自立支援法案」 障害者政策 伴われぬ実態



OECD(経済協力開発機構)社会支出統計(04年版)から、障害年金やヘルパーなどの現物給付、業務障害での障害による一時的な休業給付などを含む



(85年まではジム・マンセル/ケント・エリックソン「施設強化と地域生活—英国、北米、米国における比較研究(相川書房)のグラフからの概数。90年以降と日本分は、花園大学 三田頼子助教が追加作成

対象狭く、少ない予算

●定義

障害者自立支援法案が国会で審議中だ。働ける障害者に働いてもらい、負担も求める気持は、日本の障害者施設の転換点といわれる。審議では障害の定義や人数を基本データが不十分なことや、地域をさらすための基礎情報の遅れなどが浮き彫りになった。「社」の「絶」でもある障害者政策のあり方が問われている。

「知的障害の定義をどうし、正確な数を把握して欲しい」と、知的障害者の親たちでつくる「全日本手をつなぐ育友会」の松友了事務所の参事人として訪れた薬院生労働委員会に求めた。

日本の法律には知的障害者の定義がない。人数も政府が10万36万人(人口の0.36%)を「障害者」として一括して中心に把握した上で、手帳発給の基礎は都道府県(2)にばらばらだ。川崎医療福祉大学の岡田尚孝氏は「先通国では、知的障害者は人口の2%前後、ところが通常識。日本は低すぎる」と話す。松友氏も「定義が人数は政策の基本。土台がないと勘定でくまなくきたら、施策の遅れの原点が大きい」と嘆く。「世界の常識」と聞くのは知的障害者だけが「世の中の常識」と違っている。05年版障害者白書によると、身体、精神、知的を合わせた障害者の総数は約686万人。人口の5%だ。主な先通国をみると、米国の10～20%、州でニュージャージーは20%、北独は30%を越す国もある。

政府の支出も低い。01年の国内総生産(GDP)に占める障害関連分野の割合は、66%。米国の半分、ドイツの9分の1、スウェーデンの9分の1だ。ケイツは「この数字は低すぎる」と話すが、それ以上に違うのは、松友久夫・日本社会事業大学教授は「日本は目が見えない、手足にまひがあるなど、医学的な障害が中心だが、世界的にICF(国際生活機能分類)に基づき、生活面の困難や環境要因に注目した広い概念でとらえる傾向がある」と指摘する。

その結果、日本では発達障害や難病、慢性疾患など二谷間の障害が生じ、支援の対象になってきた。約1億の障害者団体が加盟する日本障害者協議会の政策委員会では、医学的な診断を中心に判断するのをやめ、支援の必要に基づいてあると話す。

●受け皿

政府が掲げる障害者が「ノーマライゼーション」を実現するには、住まいや働く場、ホームヘルプサービスなどの地域支援体制が不可欠だ。

「脱施設」に逆行も

しかし、全国障害者社会資源マップ(03年度版)によると、障害者が一層に地域で生活するヘルプホームが1つもない市町村は7%、働く場がある通所授産施設がないところは75%に達する。厚生労働省によると、知的障害者のホームヘルプサービスの数は増加傾向にある。利用者の数も増加傾向にある。利用者の数も増加傾向にある。利用者の数も増加傾向にある。

障害者自立支援法案

「障害者」が能力と適性に応じて自立した生活ができるよう、必要な福祉サービスを提供し、安心して暮らせる地域社会の実現を目的に掲げる。身体、知的、精神3障害のサービスは、2

を心配する家族の願ひを踏まえて、脱施設に逆行する。脱施設を増やして、自立支援の声を上げていく。

「はこを介されたよな感じです」。長野県にある西御前地域生活支援センターの山田優所長は話す。

長野は県を挙げて脱施設に取り組む。県立の知的障害者入所施設「長野県西御前(定員500人)では今年度よりヘルプホームを出発点を打ち出した。しかし、「自立支援

最低限の介助が「益」?

山井和則氏(民主)は先月の衆院厚生労働委員会、法案に盛り込まれたヘルプの維持に必要だ。負担する仕組みが欠かれない」と理解を求め、大阪市に住む福住まひ

年金や手当充実が先



「我が国十何万の精神障害者、実に10%の病後びこるに苦しむ。この困りに向き合うべきだ。この困りに向き合うべきだ。この困りに向き合うべきだ。

を上げてきた。山田所長は「ヘルプを回って、ヘルパーを揃えて、ヘルパーは、通院の付添い、移動など、24時間ヘルパーの助けが必要だが、障害者支援法制度から支給されるのは月3.87時間分。不足はヘルパーの事務所やボランティアに派遣している。1年前から脚が曲がり、トイレの介助は2人が入らなければ、人手を求めた近くの福祉センターのボランティアに依頼。法案が成立すると、障害年金は年取りが30万円を超えれば手取りが同じ支援を受けるには、月2万4000円の負担が必要になる。

●負担

「ヘルプは民間企業、NPOなどで実現して、ヘルプサービスは公的負担を減らす必要がある」と強調している。

自立支援法案は当初期待したが、今は危機感に変わった。年金や手当の充実など所得保障、障害の定額や認定の見直し、サービスは民間企業、NPOなどで実現して、ヘルプサービスは公的負担を減らす必要がある」と強調している。

今回は和歌山のパイル織りの長所を生かして製作したオリジナルシーツを紹介します。

織りの段階から間に空気層のある上下2重織りになっているので、クッション性と通気性に優れています(図1)。

日本で初めて開発された独自のパイル織りによる表面の突起は、身体に適度な刺激を与え、同じ姿勢で寝ていても床ずれがしにくいシーツです。適度な滑りのあるフラットなシーツなので、寝返りや着替えが楽に出来、固定ベルト(写真・図2)によってシーツがずれないので、起き上がる時もより安全に、介助者の負担も軽くします。また、表面は水を吸わない

ポリエステル糸を使用しているため、汚れが付きにくく、水分を逃がしますので、常にサラ

るものが主でした。

こうした従来型のもの、住宅環境面や敷き布団の面からしても、セッティングがしにくく、皺になりやすく、肝心の一番動きの多い中央部分が不安定でした。

これらを改善するのにマットの暑さ15センチまで使えるように、固定ベルトを2カ所付けました。これが、寝返りや着替えが楽に出来る、夏涼しく、冬温かい「優遊しき布」です。

□サイズ

190センチ×100センチ

固定ベルト2カ所

□抗菌・防臭加工 洗濯機可

□素材

ポリエステル80%

ナイロン20%

□値段

17325円(本体16500円)
サロン紙お読みの方35%OFF。
前号のペチコートも35%OFF。

□注意

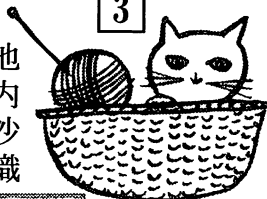
通常のシーツ以外の用途には使用しないでください。
ストーブの側など、高温になるところには近づけないでください。

ひとつずつ
ひとつだけの世界

3

優遊しき布

池内沙織



サラ感が持続します。さらに洗濯後の速乾性にも優れています。

従来のパットは四隅のゴムでマットに挟み込むのが大半。またシーツも周りにゴムが入っていて包み込むものと、シーツ自体が大判になっていて四方をくるむようになってい

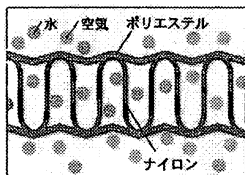
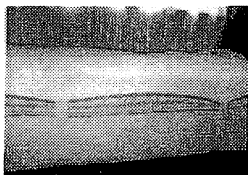


図1



写真

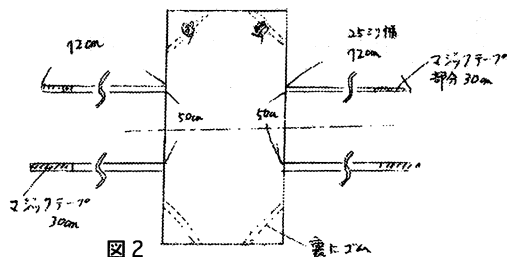


図2

ゆい・まある (沖縄の方言)
つながり・助け合い・お互いさま



Yuimari

—問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織—
〒567-0048 茨木市北春日丘4-9-24 井上101
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115
E-mail: tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp



SALOON

読組ニュース

8月はどこのサロンの、どのテーマがお気に入りですか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」8月の出会い

日時：8月21日(日)午後1時30分～4時

内容：犬と人間との共生

～日本におけるレスキュー犬の育成～

ゲスト：石井勝治氏

(財)さわやか福祉財団会員

ボランティア企画協会大阪代表

会費：なし

場所：淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6394-2900

E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」8月の出会い

日時：8月13日(土)午後1時30分～4時

内容：暑中見舞いハガキを作ろう!

持参の物：ハガキ・筆記用具

会費：なし

場所：西区在宅サービスセンター6階

ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14 (西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ
市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

☎06-6539-8075

問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・にしよど」8月の出会い

日時：8月27日(土)1時30分～3時30分

内容：モンゴルの「けんだまチャンピオン」に話を聞きます。

ゲスト：サロール・ジャルガル氏

参加費：なし

場所：西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」

問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター

☎06-6494-0635

中本 ☎090-9864-9678

■サロン「アイ」8月の出会い

日時：8月13日(土)午後1時30分～4時

内容：生野区アクションプランについて

パネラー：植村利弘氏

会費：なし

場所：「おかちやま」2階ボランティアルーム

大阪市生野区勝山北3-13-20

問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6712-3101

○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが出来ます。ご希望の方は、西浦まで。

☎06-6757-8574

■《てくてく・すみよし》8月の出会い

日時：8月7日(日)午前11時～午後3時

内容：ちぎり絵「ひまわり」を作ります。

場所：あびさんサロン

大阪市住吉区我孫子3-10-16

会費：2000円(材料費・講師料含む)

定員：15名

申し込み・問い合わせ先：

山本篤江 ☎06-6692-8411

携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」8月の出会い

日時：8月7日(日)午後1時30分～4時

内容：トリの人形作りに挑戦です

講師：吉住てる氏

会費：なし

場所：鶴見区民センター3階

大阪市鶴見区横堤5-3-15

問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)

田村 ☎06-6913-7070

■「サロンいたみ」8月の会いはお休みです。

■8月7日「さろん亭」が開店します■

バッグにいっぱい
買うて!



あべのカーニバル なんでも市通り

さろん亭

連絡先 富田慶子 545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL/FAX 06-6691-1028

寄りみち



「暑いすな・・・」が、^世巷の標準の挨拶みたいな、今日このごろですが、どないですか？ 今年梅雨入りの前から暑く、入ってからもちろんいつもより暑い日がたくさんありました。この調子だと、8月7日の「さろん亭」の日は間違いなく暑いでしょう。暑いから気が進まない、と暑さを言い訳にしないで、8月7日(日)あべのカーニバル・なんでも市通りの「さろん亭」には来てくださいネ。(石)

<サロン・あべの>VOL. 229 発行：平成17(2005)年7月16日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>